



ほけんだより

みらいこどもえん

2023年

7月号



気温が上がり、汗ばみやすい季節になりました。子どもの皮膚は薄く、敏感でバリア機能も未熟なため、汗が皮膚トラブルの原因になることがあります。「あせも」はその代表例です。皮膚は清潔&保湿を心がけましょう。

とびひが増える季節です



とびひ(伝染性膿痂疹)は夏に多く見られます。虫に刺された跡を汚れた手でかくなどすると、細菌(ブドウ球菌)が感染し、そこで繁殖します。初期に水ぼうがができますが、すぐに破れてじゅくじゅくした状態になります。その部分を舐めた手で別の場所を舐めると、そこにもとびひが広がります。

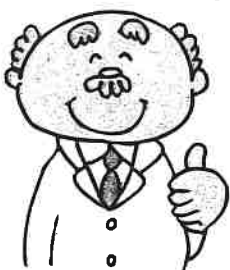
《主な症状》

- ✿ 皮膚に小指のつめくらいの水ぼうがができる。
- ✿ 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる。
- ✿ 強いかゆみがある。



《家庭での手当て》

- ✿ じゅくじゅくしている部分はガーゼで覆って下さい。
- ✿ お風呂はシャワー程度にして、タオルも個別にしましょう。タオルを共有して感染することがあるからです。
- ✿ 完全に乾燥するまで感染力がありますから、乾燥するまではガーゼで覆い、プールは禁止になります。



✿ 感染力が強いので、医療機関を受診し、薬をもらって下さい。

虫よけ



《対象年齢・使用回数をチェック》

含まれる成分によって、使用できる年齢や回数が変わります。2歳未満の子どもに使う場合は特に注意しましょう。

《タイプをチェック》

スプレータイプは、子どもが虫よけ成分を吸い込みやすいので、ジェルやシート状の物がよいでしょう。ミスト状の物は、一度大人の手で吹きかけてから、子どもに塗るようにします。

《皮膚をチェック》

ケガや湿しんがあるところには、虫よけをつけないようにしましょう。



虫刺され



蚊に刺されると、かゆくてつらいだけでなく、かきこわして傷口が化膿したり、「とびひ」になったりすることもある。蚊に刺されたら、早めのケアが大切です。

《石けんで洗いましょう》

刺されたところを石けんで洗って、かゆみのもとを洗い流します。水で冷えてかゆみも軽くなります。

《かゆみを和らげましょう》

かゆがるときは、ぬらしたタオルや保冷剤で冷やしたり、かゆみ止めを塗ったりしてケアします。



《かゆみやはれがひどいときは皮膚科へ》

刺されたところが強くはれたり、皮膚がじゅくじゅくしたりするときは、皮膚科を受診しましょう。

